

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人
第5学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人

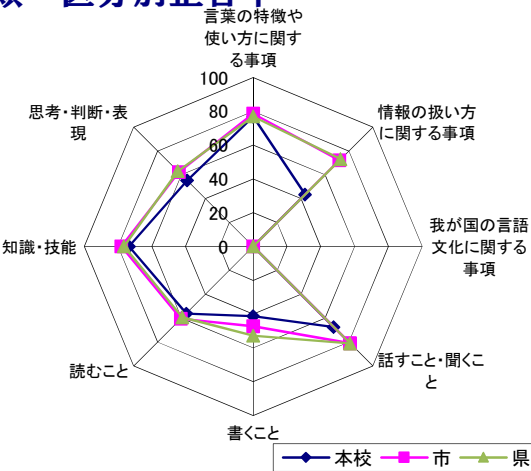
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.8	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	43.5	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	67.4	81.0	81.1
	書くこと	41.3	47.2	52.8
	読むこと	56.0	60.5	59.3
観点	知識・技能	73.5	78.0	76.5
	思考・判断・表現	55.2	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

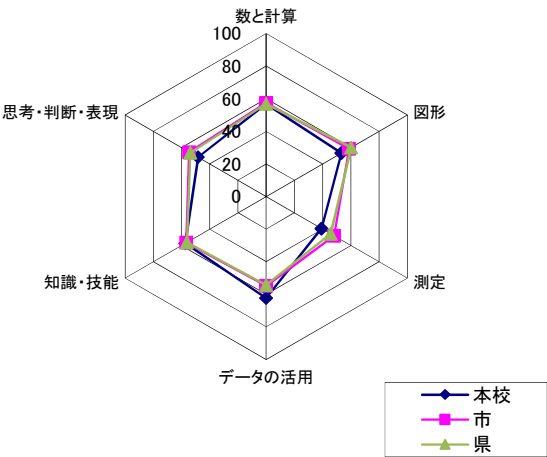
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は市の平均より1.8ポイント低い。 ○漢字の読みについて、3つの設問のうち、2つの設問で正答率が市の平均を上回った。特に「育てた」の漢字の読みは正答率が100ポイントとなった。 ○漢字の書きについて、「美しい」の設問での正答率が市の平均を8.0ポイント上回った。 ●「乗車」を正しく書く設問の正答率は、市の平均を14.3ポイント下回った。	・日々の授業の振り返りなど、文章を書く場面において児童が習った漢字を進んで使うように指導することで、漢字の読み書きが確実に定着できるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	・平均正答率は市の平均より28.7ポイント低い。 ●国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ際に、題意をきちんと捉えることができなかったことが誤答になってしまった要因であると考えられる。	・国語辞典を使用する機会を増やし、使い方に慣れるとともに、題意をきちんと捉えられるように、日々の授業において文章題を解く場面を設けられるようにする。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は市の平均より13.6ポイント低い。 ●全ての設問で正答率が市の平均を下回った。特に、記述式で回答する設問においては、11.2ポイント低く、無回答率が4.8ポイント高くなった。 ○選択式の問題においては、無回答の児童がいなかった。	・国語の授業だけでなく、学級活動等で司会を立てて話し合いを行う場面を設けることで、話し手の意図を捉えたり、司会として意見を整理したりする経験ができるようにする。 ・適切な話の聞き方、話し方が身に付くように、日々の生活の中で指導する。
書くこと	・平均正答率は市の平均より5.9ポイント低い。 ○無回答率が、全ての設問において市の平均を9.5ポイント下回った。文を書くことへの前向きさが要因であると考えられる。 ●2段落構成で文章を書くという条件を満たせた回答率が、市の平均を9.5ポイント下回った。	・条件に合わせて文章を書くような場面を多く設けることで、文章の正しい書き方が身に付くようにする。 ・書くことへの抵抗をなくすように、年間を通じて作文を行う時間を設ける。
読むこと	・平均正答率は市の平均より4.5ポイント低い。 ○物語の読解では、叙述を基に場面の様子を捉えることができるかをみる設問において、正答率が市の平均を6.2ポイント上回った。 ●説明的文章の読解では、文章の中心となる語や文を見付けて書き抜くという2つの設問において、正答率が市の平均を12.3ポイント、10.6ポイントと、いずれも下回った。	・説明的文章の読解において、文章読解のキーワードとなる語を見付ける活動や、問いに対する答えの言葉を書き抜く活動を多く取り入れることで、正しく文章読解ができるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.8	57.4	56.9
	図形	53.3	58.7	60.1
	測定	39.1	48.1	45.7
	データの活用	62.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	57.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	48.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

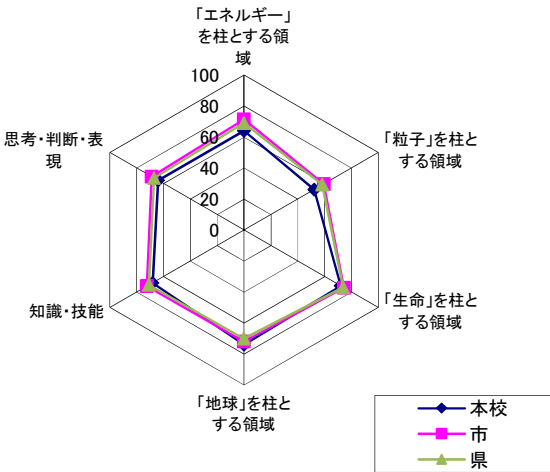
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none">平均正答率は市の平均より0.6ポイント低い。○数直線で数の大きさを分数で答える問題は、正答率が市の平均より22.8ポイント上回った。●分数のひき算について計算のしかたを説明する問題では、市の平均より17.7ポイント下回った。●余りの考えをもとに、計算の間違いを説明する問題では、市の平均より21.2ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">日頃から意欲的に学習に取り組んでおり、数や計算の基礎基本は定着してきている。発展的な問題にも取り組ませ、一層の習熟を図る。記述問題では、適切な説明の仕方が思いつかないため、無回答の割合がやや高くなる傾向がある。グループ学習などを通して自分の考えを伝える活動を取り入れ、言葉で説明する力を育むよう支援していく。あまりのあるわり算の文章問題では、あまりの処理の仕方を正しく判断できるように、図式化をしながら問題練習を繰り返し、習熟を図る。あまりのあるわり算の文章問題で、適切に解答が出せるような様々な問題に取り組ませ、定着を図る。
図形	<ul style="list-style-type: none">平均正答率は、市の平均より5.4ポイント低い。○正三角形を作図する問題では、正答率が市の平均より7.1ポイント上回った。○二等辺三角形の頂点を見つける問題では、正答率が市の平均より14.7ポイント上回った。●球を平面で切った切り口を選ぶ問題では、正答率が市の平均より26.2ポイント下回った。●球の半径や直径を利用して長さを求める問題では、正答率では市の平均より17.4ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">三角形の作図では、正三角形や二等辺三角形などの特徴を理解しており、基礎・基本が定着している。発展的な問題にも取り組ませ、さらに理解を深めていく。球の断面の形など、球の性質について再確認し、基本的な知識の定着を図るよう、指導を継続していく。図や問題文にある情報を整理し、数値を図に書き込む習慣をつけさせる。球の直径と箱の大きさを平面図に表す操作を通して、直径と箱のたて・横の長さとの関係の理解を図る。
測定	<ul style="list-style-type: none">正答率は、市の平均より9.0ポイント低い。●2つの道のりを比べてどちらが短いかを説明する問題では、正答率が市の平均より14.2ポイント下回った。●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題では、市の正答率より13.4ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">長さや重さの単位について基本事項を確認し、単位の違う長さや重さの和や差を求める問題に繰り返し取り組ませ習熟を図る。はかりなどの読み取りでは、1目盛りの大きさに着目して正しく判断できるよう指導を重ね、類似問題を通して定着を図る。
データの活用	<ul style="list-style-type: none">正答率は市の平均より7.4ポイント高い。○育てたい野菜の二次元表から正しい傾向を選ぶ問題では、市の平均より13.8ポイント上回った。○目的に合わせて選んだ棒グラフについて、その棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率は、市の平均より4.4ポイント上回った。	<ul style="list-style-type: none">二次元表や棒グラフでは、情報を正しく読むことができる。さらに力をつけるために、発展的な問題にも挑戦させ、今後の学習につなげていく。グラフや図、説明文から読み取った情報を整理し文章での説明の仕方を繰り返し指導していくことで習熟を図る。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	64.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	52.2	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.1	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	73.9	72.0	70.1
観点	知識・技能	68.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	64.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より7.4ポイント低い。 ●電気の通りの道の名称を答える問題の正答率は47.8%で、市の正答率を17.3ポイント下回った。 ○豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選ぶ問題の正答率は78.3%で、市の正答率を5.0ポイント上回った。 ●実験の結果から考察する問題の正答率は60.9%で、市の正答率を17.3ポイント下回った。	・「回路」など理科で使用される言葉をしっかり押さえ、学習の中で使っていく。 ・実験の結果からどんなことがいえるか、文章でまとめる活動を充実させていく。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より7.1ポイント低い。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について、実験結果を予想する問題の正答率は13.0%で、市の正答率を14.0ポイント下回った。 ●はかりを用いて正しく調べる技能を問う問題の正答率は73.9%で、市の正答率を11.1ポイント下回った。 ○体積を同じにした時の重さの違いを問う問題の正答率は95.7%で、市の正答率を7.0ポイント上回った。	・「回路」など理科で使用される言葉をしっかり押さえ、学習の中で使っていく。 ・実験の結果からどんなことがいえるか、文章でまとめる活動を充実させていく。 ・実験の結果を予想する活動では、既習事項や自分の生活体験を生かしながら、検証の目的や自分の目的を明確にさせたい。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より2.4ポイント低い。 ●ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題の正答率は39.1%で、市の正答率を22.6ポイント下回った。 ○植物の作りに関する問題の正答率は87.0%で、市の正答率を5.6ポイント上回った。 ○モンシロチョウの育ち方について適切な文章を選ぶ問題の正答率は95.7%で、市の正答率を4.5ポイント上回った。	・昆虫や植物の育ち方の特徴を絵や言葉など様々な方法で確認し、正しく理解させる。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より1.9ポイント高い。 ○方位磁針の正しい使い方に関する問題の正答率は69.6%で、市の正答率を3.9ポイント上回った。 ●太陽と日陰の位置に関する問題の正答率は69.6%で、市の正答率を9.7ポイント下回った。 ○温度計の正しい使い方を選ぶ問題の正答率は100.0%で、市の正答率を16.2ポイント上回った。	・太陽と日陰の位置関係については、理科の学習に限らず日頃の学校生活に関連させ、体験を伴い実感させていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている」の肯定的回答が91.3%で県の平均を3.2ポイント上回っていた。また「しょう来のゆめや目標をもっている」でも95.6%の児童が肯定的回答をしていた。日々の生活に楽しさを見出しながら、将来に対しても明るい展望を描いている児童が多いと考えられる。今後も一人一人のよさに目を向け、児童が前向きに生活できるように支援していきたい。

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答が91.3%で、県の平均を26.4ポイント上回っていた。また、「毎日、朝食を食べている」、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答がいずれも100%だった。家庭において、児童が学習面でも生活面でも規則正しく、心身ともに健康的な生活が送れていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、家庭学習の時間の確保や家庭でのよりよい過ごし方についての指導を継続していきたい。

○「人と話すことは楽しい」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答が100%だったことから、学習に対して対話を通じて学ぶことの良さを感じていることがうかがえる。このことを生かし、学級での対話を通じて学ぶことの楽しさを実感させていきたい。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答が69.6%で、県の平均を5.8ポイント上回っていた。今後も本校の今年度の重点目標でもある、書く活動を通して自己表現ができるような指導の工夫を進めることで、書くことで自分の考えを表現できるようにしていきたい。

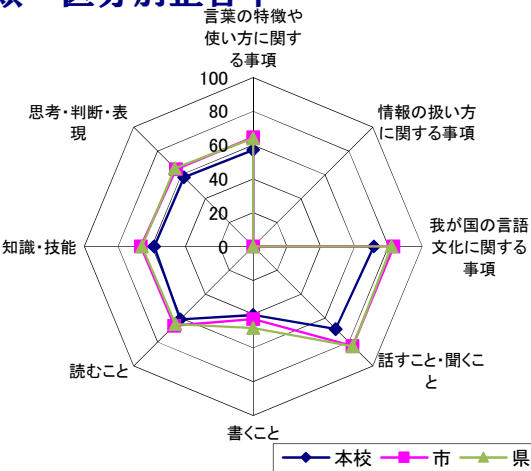
●「算数の学習は、しょう来のために大切だと思いますか」では、肯定的回答が100%であるのに対して、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」では、肯定的回答が78.2%で、県の平均を5.2ポイント下回った。「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という質問事項において肯定的回答が26.1%となり、県の平均を31.3ポイントも下回った。学習の必要性は感じていても、その楽しさを実感し、根気強く取り組む姿勢の定着には課題がみられる。今後は、授業を通して学ぶことの楽しさや、分からない問題にも前向きに取り組めるように工夫していきたい。

●「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答が78.3%で、県の平均を6.3ポイント下回った。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答が87%で、県の平均を5.5ポイント下回った。日々の教育活動において、困難なことでも最後までやり遂げられるように指導を工夫し、その結果として児童が自信をもち、自己肯定感を高められるようにしていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	57.1	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	69.1	83.3	83.4
	書くこと	40.5	42.8	48.2
	読むこと	61.0	66.1	65.1
観点	知識・技能	58.6	66.5	65.9
	思考・判断・表現	57.9	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

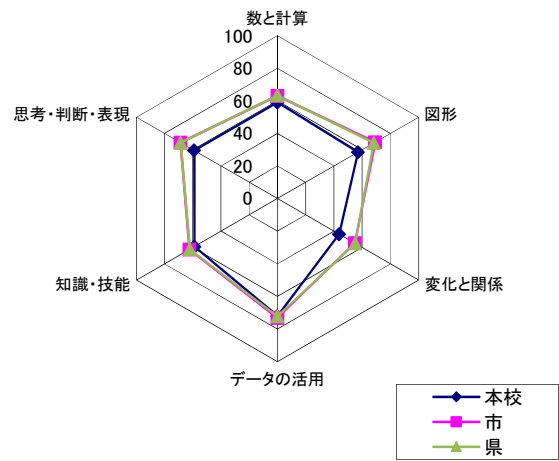
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	・正答率は市の平均より7.6ポイント低い。 ●漢字の読みについて、すべての正答率が市の平均を下回った。特に「試み」の漢字の読みは正答率が45.2%で、市の平均を24.8ポイント下回った。 ○漢字の書きについて、「冷やす」の問題での正答率が市の平均を4.7ポイント上回った。 ○文中における修飾と被修飾の関係を捉える問題の正答率は、市の平均を1.9ポイント上回った。	・漢字の読み書きについては、個人差が大きい。スマイルドリルなど自分で学習を進められる学習活動を取り入れるだけでなく、引き続きドリルや宮っ子ステップアップシートを活用して基礎基本の定着を図る。 ・修飾・被修飾の関係等については、文章読解や作文の学習活動において適宜指導していく。
情報の扱いに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	・平均正答率は、市の平均より11.7ポイント低い。 ●ことわざの正しい使い方を問う設問では、市の平均を11.7ポイント下回った。ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができない児童が多い。	・ことわざや故事成語のクイズ遊びなど、我が国の言語文化に楽しんで親しむ時間を設け、知識の定着を図っていく。また、辞書を使ってことわざや慣用句を調べる学習を取り入れたらし、語彙を増やす活動を行う。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、市の平均より14.2ポイント低い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫をとらえる問題の正答率は、市の平均を20.4ポイント下回った。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながらまとめる問題の正答率は、市の平均を16.7ポイント下回った。	・今後もペアや小グループでの対話を充実させつつ、司会者を立てたグループや学級全体での話し合いの機会を増やしていく。 ・国語や学級活動の話し合いで、話し手の意見に着目しながら自分の意見を述べたり質問をしたりするなど、能動的に聞く態度を指導していく。
書くこと	・平均正答率は、市の平均より2.3ポイント低い。指定された条件に合わせて文章を書くことに課題がある。 ○指定された長さで文章を書く問題の正答率は、市の平均を2.1ポイント上回った。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く問題の正答率は、市の平均を12.7ポイント下回った。	・文字数や時間を指定し、テーマや条件に合った文章を書く課題を積極的に取り入れ、文章を書く力が身に付くようにする。 ・書くことへの抵抗感を減らすために、文章の書き方についての型を提示し、文章を書く習慣をつけていく。 ・時間配分を考えながら問題を解く練習を繰り返し行い、無解答にならないよう指導していく。
読むこと	・平均正答率は、市の平均より5.1ポイント低い。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題では、市の平均を1.9ポイント上回った。 ●登場人物の気持ちについて、説明した分の空欄に適する言葉を書く問題の正答率は、市の平均を12.7ポイント下回った。文章に書かれている様子を読み取ることができるが、思考を必要とする内容を捉える設問は難しい。	・単元の最後に自分の感想を伝え合う場面を設ける等、主体的かつ対話的な学習活動を推し進めていく。 ・説明文の学習を行う際に、文章を意味段落に分け、それぞれがどのように関係しているのか、構造的に読むような場面を丁寧に指導していく。 ・物語文において、場面の様子や気持ちを考える際に、その理由を叙述を元に読み深めるような問い返しを行い、読解力を高めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.0	63.0	63.3
	図形	57.1	69.2	68.3
	変化と関係	43.7	54.8	55.0
	データの活用	72.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	58.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	59.0	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は、市の平均より4.0ポイント低い。○23億が23万の何倍かを答える問題や数直線上の目盛りを読み取り仮分数で表す問題の正答率は、市平均を大きく上回った。○帯分数をもとにする分数のいくつかで大きさを考える問題や2桁÷2桁(余りあり)の計算問題の正答率は、市平均を上回った。●図の中の数量を式で表す問題の正答率は、市平均よりも17.6ポイント下回った。●目的に応じた見積りの考え方について説明する問題の回答率は、市平均よりも7.0ポイント上回った。	<ul style="list-style-type: none">○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの・大きな数の構成については、位取り表などを使用し、正しい位取りができるように理解を図ったり、数のまとまりがいくつ分なのか正しく処理できるように繰り返し練習する。・図の中の数量を式で表す問題については、たし算やかけ算の式を組み合わせる計算する問題の練習を繰り返し行い、まとまりに気を付けて立式できるようにする。・およその数を求める問題については、文章問題の演習を通して、問題によって多く見積もったり少なく見積もったりすることを理解できるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は、市の平均より12.1ポイント低い。○立方体と直方体の違いを選ぶ問題の無回答率は、市平均よりも低く、0%となっている。●三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める問題の正答率は市平均より18.2ポイント下回った。●三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を選ぶ問題は、市平均より14.2ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">・角の大きさの問題について、三角定規や分度器などを用いて確認したり、図に表したりして、知識・技能の定着を図る。・コンパスやものさしなどさまざまな教具を使った作図の機会を設ける。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は、市の平均より11.1ポイント低い。○表を縦に見て伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題の無回答率は、市平均よりも0.2ポイント上回った。●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は、市平均よりも15.7ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、表の縦の関係と横の関係に着目させ、どのようなきまりがあるかを確認し、類似問題を通して定着を図る。・数量の関係の問題については、何倍の求め方を復習し、何倍を使って別の問題の答えが求められることを理解する。
データの活用	<ul style="list-style-type: none">・平均正答率は、市の平均より1.1ポイント低い。○折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題の正答率は市平均よりも2.0ポイント上回った。○二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える問題の正答率は市平均よりも4.3ポイント上回った。	<ul style="list-style-type: none">・文章問題やグラフから内容をしっかりと読み取り、データの活用場面を設ける。・二次元表を読み取る問題では、類似問題の演習を通して、折れ線グラフと棒グラフの数値の読み取り方を復習し、組み合わせたときの目盛りの読み方を理解する。

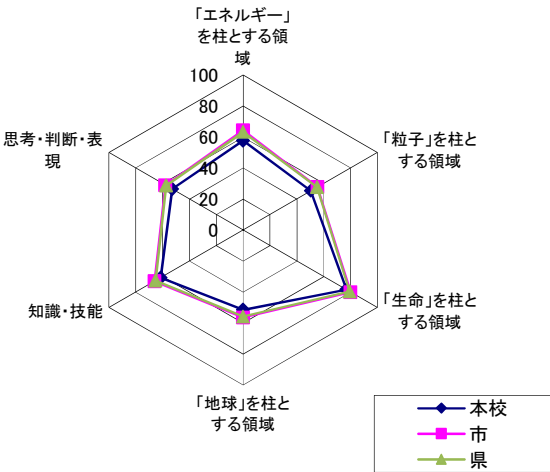
レーダーチャート表示用タイトル
数と計算
図形
変化と関係
データの活用
思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度



宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	57.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	50.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	77.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	51.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	61.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	52.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より6.6ポイント低い。 ●図で示された回路における乾電池のつなぎ方の名称を答える問題では、54.8%で、市の平均正答率を12.5ポイント下回った。 ●回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針の振れ方を示した図を選ぶ問題では、57.1%で市の平均正答率を8.4ポイント下回った。 ○無回答率は市や県の平均を上回った。	・検流計の仕組みや乾電池のつなぎ方、直列回路や並列回路についてなど基本的な内容を実験などを通して体験的に学び、学習の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より4.9ポイント低い。 ●空気を圧した時の性質について理解しているかどうかをみる問題では、23.8%で、市の平均正答率を10.7ポイント下回った。 ●金属のあたため方について理解しているかどうかをみる問題では、69.1%で、市の平均正答率を11.1ポイント下回った。	・プリントやAIDリルで復習を行い、空気や金属、水についての知識の定着を図る。そして、今後も授業の中に実験など体験的な活動を取り入れ、学習内容の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より3.1ポイント低い。 ○骨のはたらきについての問題では、45.2%で、市の平均正答率を0.7ポイント上回った。 ●動物の越冬についての問題では、81.0%で、市の平均正答率を7.8ポイント下回った。	・身近な自然の観察は、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物や植物を虫眼鏡で見ることによって観察の仕方が身に付いてきているので、引き続き指導していく。 ・図鑑やICT、模型等を活用して、昆虫や動物の仕組みについて理解できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	・平均正答率は、市の平均より4.9ポイント低い。 ○結露に関する問題では、35.7%で市の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●水たまりのできにくさについてしみこみやすさと関連付けて表現する問題では、28.6%で、市の平均正答率を13.4ポイント下回った。	・気温の変化や星座の並び方、月の位置を正しく捉えられるよう、グラフや模型等を活用し、引き続き指導していく。 ・表現力を育むために、自分の言葉で「なぜそうなのか」「これとどう関係するのか」といったことが書けるように指導していく。

宇都宮県立城山中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭で宿題に取り組んでいる児童の割合、授業の予習や復習などを行っている児童の割合はともに県や県の割合よりもやや少ない。
○学習時間については、平日1時間以上の児童が50.0%と、県の平均50.1%と同程度の結果であったが、土日の学習時間は、2時間以上の児童が23.8%と県の平均16.2%よりも7.6ポイント高く、平日、土日ともに、学習する習慣が定着していることが考えられる。
○1カ月に読む本の冊数については、5冊以上読んでいる児童の割合が47.6%と県の平均を上回っている。
●「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的割合は76.2%、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」のを肯定的割合は66.6%と県の平均を大きく下回っており、学習に対して興味を持って取り組ませていくことが課題である。
●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的割合は、県の平均を下回っており、どんな問題であっても最後まで、あきらめずに取り組むことができるようにさせていくことが課題である。
○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的割合は85.7%であり、ともに県の平均を上回った。
●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と考えている児童は59.5%で、県の割合を大きく下回った。授業の中で、自分の思いや考えをとクラスの友達と話し合い、交流する活動を増やしていく必要がある。
○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的割合はともに県や県の平均を上回っていることから、授業内で意見交換の場を多く設定することが効果的であると考えられる。
●平日、1日当たりのテレビゲームに費やす時間が2時間以上であると回答した児童が52.4%と県の平均より5.1ポイント高かった。また、テレビゲームをしている時間が長い児童ほど各教科の正答率が低く、ゲーム機やスマートフォンとも関わり方を家庭と連携しながら改善していく必要がある。
●テストの問題を解く時間については、時間が足りなかったと回答した割合が、国語は28.5%、算数は21.5%と県の平均よりも高く、テストの時間配分について考えながら取り組ませる必要がある。
○「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的割合はともに県の平均を上回った。
○「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」の肯定的割合は80.9%であり、県の平均より11.8ポイント上回ったことから、日頃から理科の学習に興味をもって取り組んでいることがうかがえる。

宇都宮県立城山中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成 ～書く活動を通して自己表現し、生き生きと学び合える指導の工夫～	・学び合いの場を工夫した表現活動の充実 ・自分の考えを持ち、書く活動を通して自己表現できる児童の育成	・クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているの質問の肯定的割合は、4年生は100%、5年生は59.5%である。 ・授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしいの質問の肯定的割合は、4年生は69.6%、5年生は64.3%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科にも県の平均正答率より低い事項があり、基礎・基本の取得が十分とはいえない。家庭学習では、平日や休日の学習時間が1時間以下の短い児童が多く、学習の習慣化が十分ではない。	・基礎基本を定着させるためのきめ細かな指導 ・校内研修、授業力向上による「分かる授業」の展開・授業改善 ・適切な宿題や自主的な学習内容・方法の提示による家庭学習の習慣化	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示とまとめ・振り返りを行う時間の確保を図った、児童一人一人が分かる授業研究を行う。 ・漢字・計算検定を実施し、一定期間、漢字や計算の練習に取り組ませることにより、学習を継続する力を養うとともに、学ぶ意欲の向上を図る。 ・家庭学習強化週間を年2回設定し、「学年の目標時間に取り組む」ことを目指す。 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携を図る。